

宮崎市出身の瑛九（本名：杉田秀夫）は、生涯を通じて常に新しい表現を求め、写真や版画、油彩など様々な技法に取り組みました。またその作風も、初期から晩年に至るまで、印象派やシュルレアリスム（超現実主義）風、抽象的な作品など、多彩に変化しました。

20代でフォト・デッサン集『眠りの理由』を刊行し、一躍美術界で脚光を浴びた瑛九は、様々な技法や表現を模索した後に、その集大成ともいえる点描による絵画空間へとたどり着きました。

今回の展示では、各領域の代表的な作品とともに、瑛九の宮崎での活動や交流のあった作家などを特集して紹介します。没後60年近くを経て、今なお輝き続ける瑛九作品の魅力をお楽しみください。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	玉井 瑞夫	1923～2014	笑う瑛九	1952(昭和27)	27.1×25.0	写真
2	瑛九	1911～1960	雲の花(4)	1958(昭和33)	7.2×9.0	エッチング
3	瑛九	1911～1960	題不明	1937(昭和12)	23.7×16.7	フォト・コラージュ
4	瑛九	1911～1960	乱舞	1950(昭和25)	55.8×45.5	フォト・デッサン
5	瑛九	1911～1960	風が吹きはじめ	1957(昭和32)	39.7×52.8	リトグラフ
6	瑛九	1911～1960	山びこ	1953(昭和28)	18.2×12.4	エッチング
7	瑛九	1911～1960	小さい葉・秋	1959(昭和34)	24.9×19.0	水彩
8	瑛九	1911～1960	線のデッサン	1958(昭和33)	25.5×20.6	水彩
9	瑛九	1911～1960	作品－E	1936(昭和11)	45.7×53.4	油彩
10	瑛九	1911～1960	蝶と女	1950(昭和25)	80.7×65.5	油彩
11	瑛九	1911～1960	青の動き	1956(昭和31)	53.0×41.2	油彩
12	瑛九	1911～1960	街の灯	1957(昭和32)	53.3×65.5	油彩
13	瑛九	1911～1960	嵐	1958(昭和33)	90.9×116.7	油彩
14	瑛九	1911～1960	ブーケ(花束)	1959(昭和34)	162.0×130.3	油彩
15	瑛九	1911～1960	雲	1958-59(昭和33-34)	60.8×72.8	油彩
16	瑛九	1911～1960	田園B	1959(昭和34)	130.7×194.0	油彩
17	瑛九	1911～1960	ザメンホフ像	1934(昭和9)	53.1×41.0	油彩
18	瑛九	1911～1960	タバコを吸う女	1935(昭和10)	32.4×23.7	油彩
19	瑛九	1911～1960	フォト・デッサン集『眠りの理由』より	1936(昭和11)	22.0×27.0	フォト・デッサン
20	瑛九	1911～1960	でいすい(よいどれ心理)	1937(昭和12)	37.9×45.8	油彩
21	瑛九	1911～1960	フミタ写真館	1941(昭和16)	45.4×33.7	油彩
22	瑛九	1911～1960	宮崎郊外	1943(昭和18)	72.5×90.8	油彩
23	瑛九	1911～1960	赤衣	1948(昭和23)	33.5×24.4	油彩
24	塩月 桃甫	1886～1954	イチジク	1946(昭和21)	22.0×27.3	油彩
25	山田 光春	1912～1981	題不明	1951(昭和26)	45.7×35.5	油彩

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
26	郡司 盛男	1920～2004	蝶	1951(昭和26)頃	45.4×53.5	油彩
27	内田 耕平	1924～1993	作品	1953(昭和28)	33.4×24.0	油彩
28	太佐 豊春	1921～2005	反時代	1954(昭和29)	181.0×90.4	油彩